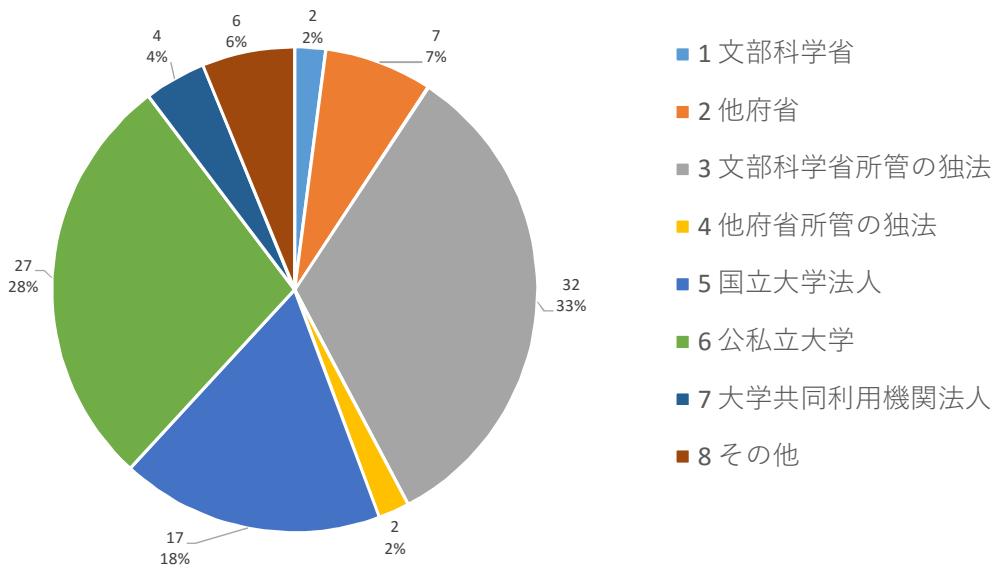


平成28年度 文部科学省研究開発評価シンポジウム
 アンケート集計結果

平成28年度の参加者は97名で、参加申し込み者数115名の84.3%であった。
 アンケートの回収率は62.9%である。

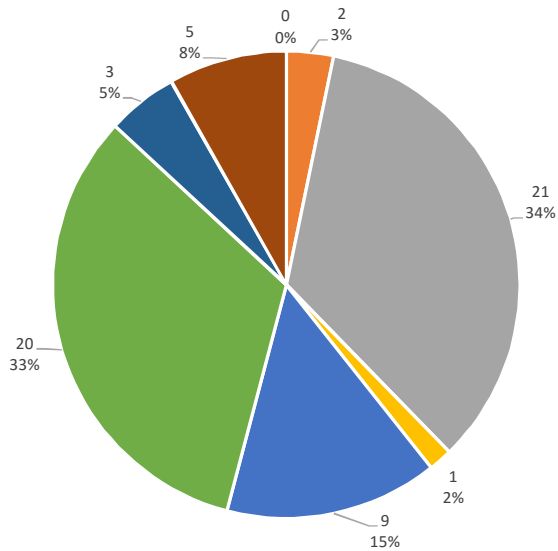
参加者

n=97(登壇者、事務局除く。)



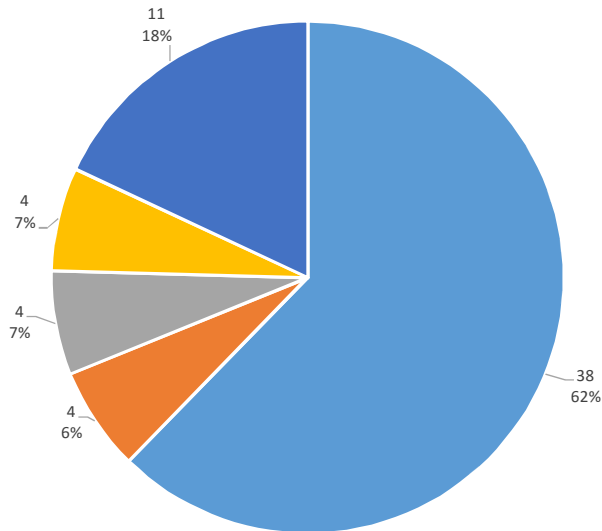
アンケート回答者

n=61



業務内容

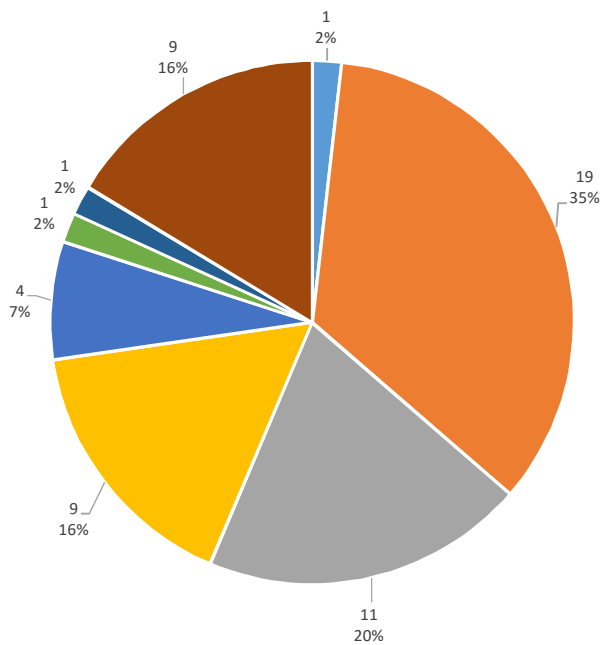
n=61



- 1 評価実務者 (事務局職員)
- 2 評価実務者 (教員)
- 3 評価実務者 (研究者)
- 4 評価研究者
- 5 その他 (URA,研究支援業務担当等)

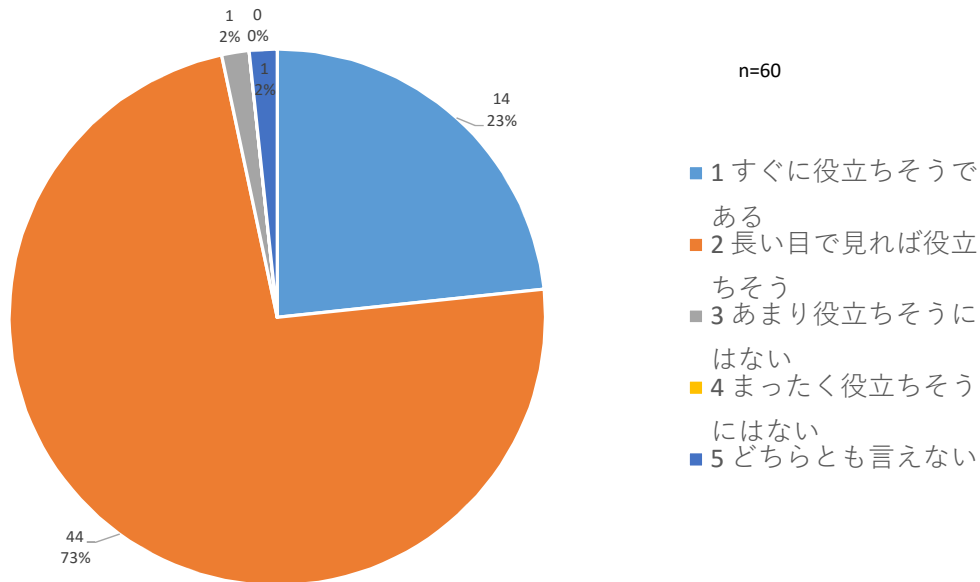
現在の業務歴

n=55



- 1年未満
- 1年～2年未満
- 2年～3年未満
- 3年～4年未満
- 4年～5年未満
- 5年～6年未満
- 6年～7年未満
- 7年以上

質問2 シンポジウムの内容は、あなたが仕事を進めるうえで参考になりそうですか。



<すぐに役立ちそうである>

- ・ 資料を職場で回覧したい。
- ・ 現在、検討中の内容であったため。
- ・ 指針改正のポイントが分かりやすく説明されたため。
- ・ 評価の考え方が整理され、適切なPDCAを意識した取組につながる。
- ・ 第2部のパネル・ディスカッションで具体性が分かり、イメージできたため。

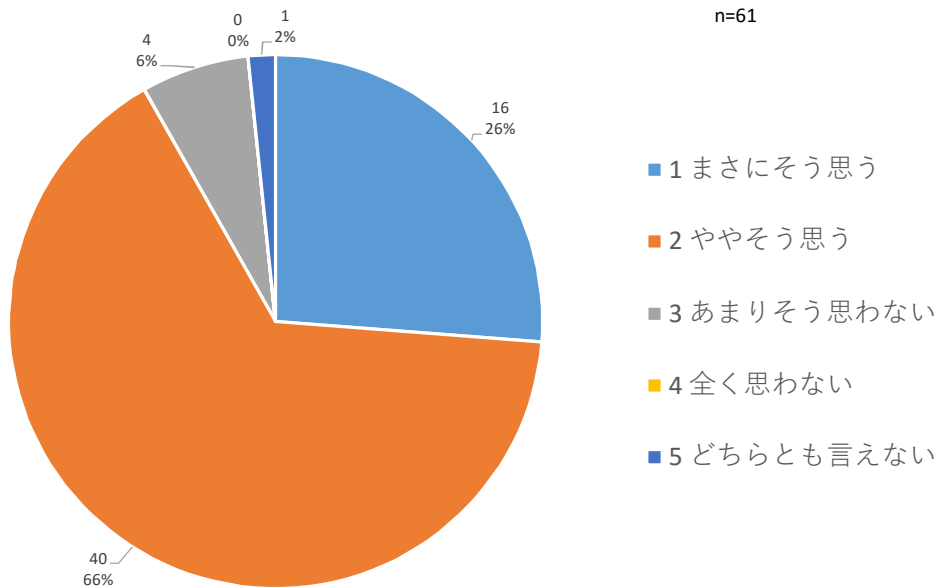
<長い目で見れば役立ちそう>

- ・ 大学での評価について具体的に考える段階のため。
- ・ 独法通則法による評価とどのようにリンクさせるか参考にしたい。
- ・ プログラム評価の重要性、挑戦性の捉え方など参考になった。
- ・ 具体的にどのように活かすかは考える必要があるため。
- ・ 大学の重点研究にぜひ取り入れたい。
- ・ 組織内の話とかみ合わせるのが難しい。

<あまり役に立ちそうにない>

- ・ 具体例が少なかった。

質問3 新たな知見が得られましたか。



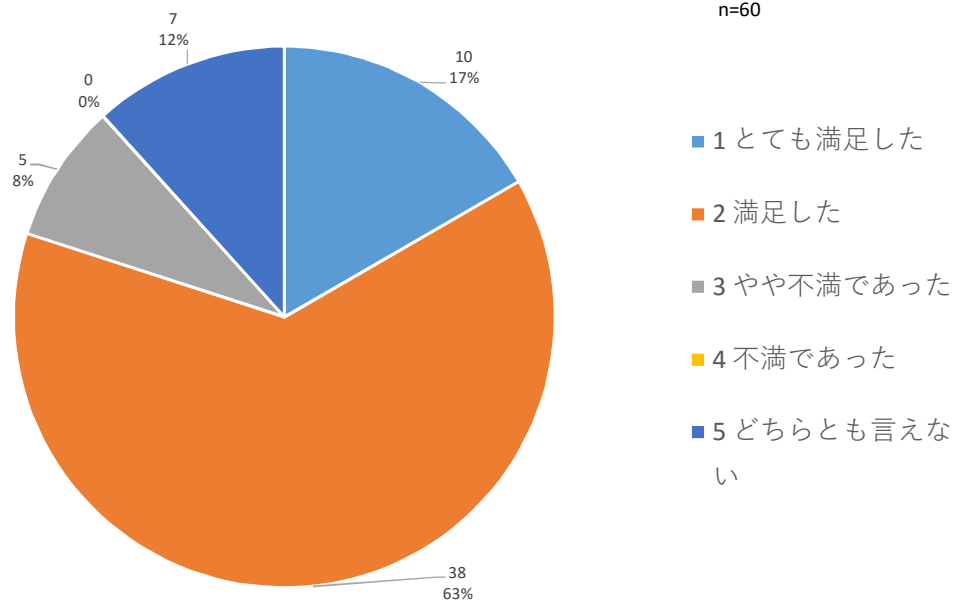
<まさにそう思う>

- ・ 成果が得られないことだけで「否」とせず、プロセスなど今後の活動に活かす道を考える視点が大きな気付きとなった。
- ・ 特に海外の動向について知見が得られた。
- ・ 理化学研究所の講演について知見が得られた。
- ・ 言葉の定義が理解できた。
- ・ 各講演でエッセンスが伝わり、パネル・ディスカッションでよく理解できた。

<ややそう思う>

- ・ 海外の資料は勉強の良いきっかけとなった。
- ・ 理化学研究所の登壇者の「チャレンジングな取組は、金は出すが口は出さない、評価しない」が印象的だった。
- ・ JSTや理化学研究所の事例は、自大学にとって参考になる。
- ・ どの講演者も基礎的なところから丁寧に説明されており、分かりやすかった。
- ・ 研究開発評価にもマネジメントが必要であること。
- ・ 即使える解法ではなかった。

質問4 満足度はいかがでしたか。



<とても満足した>

- ・具体的な指針を入手できた。
- ・新たな知見が得られて、大変有意義だった。
- ・大綱的指針の読み方が分かった。

<満足した>

- ・第2部のまとめが頭の整理に役立った。
- ・全体的に有益であった。
- ・SDCA-PDCA-SDCAの関連性の話が現場に携わる者として興味深かった。

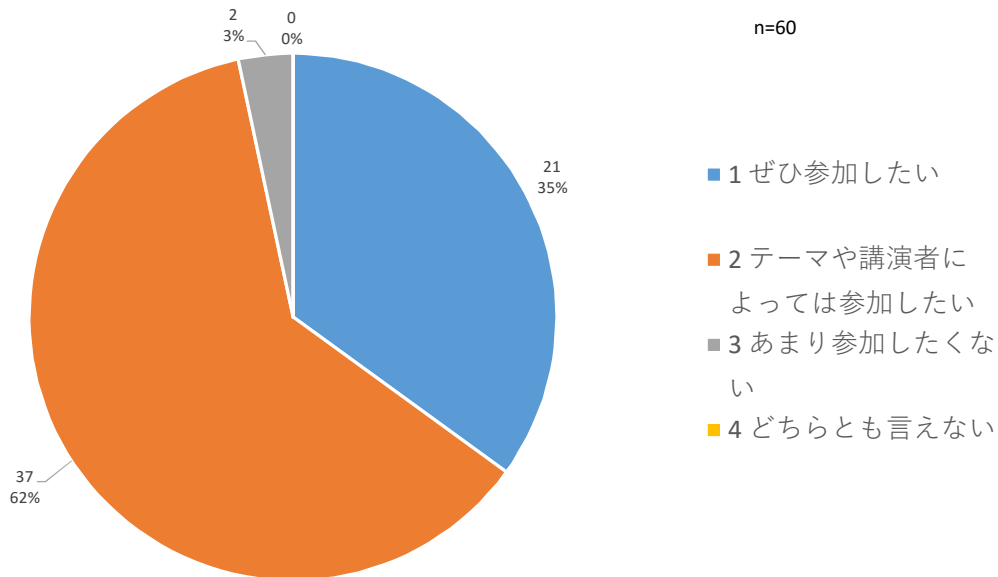
<やや不満であった>

- ・具体的な評価そのものを学ぶつもりだったため。

<どちらとも言えない>

- ・研究開発評価と他の評価との類似点、相違点がもう少し分かると良かった。
- ・パネル・ディスカッションのテーマに対し、少し冗長的に感じた。講演は良かった。
- ・事例紹介が単調に感じた。パネル・ディスカッションは興味深かった。
- ・もう少し時間がとられていたら良かった。

質問5 今後もシンポジウムに参加しようと思いますか。



<ぜひ参加したい>

- ・ 貴重な情報の入手のため。
- ・ 評価指針は社会状況により変化するものであり、新しい情報を得ることは不可欠なため。
- ・ 具体的であり、パネリストの質問が的を得ていたため。

<テーマや講演者によって参加したい>

- ・ テーマによる議論の中身を聞きながら、自大学ではどうしたらよいかを考えるきっかけになる。
- ・ 自身の担当業務に関連が深ければ参考になると思う。

<あまり参加したくない>

- ・ 特に個別の事例に関して、あまり目新しいことがない。

質問6 希望するシンポジウムの内容やテーマがありましたら、具体的にお書きください。

- ・地球温暖化に対する取組
- ・学術分野の評価に関するテーマ（環境・エネルギーなど）
- ・研究成果のアウトカムの例を掘り下げる
- ・成功に導く評価手法
- ・同じテーマで、別異なる事例を聞きたい。
- ・研究開発プログラムの実践例
- ・インパクトの例
- ・国際的な動向の具体例、海外機関の取組
- ・法人評価、政策評価、研究開発評価など各種評価の関連性や違い
- ・超初心者向けセミナー
- ・評価疲れを解消するための取組事例
- ・文系大学の事例
- ・プログラム設計手法と評価
- ・新しい制度・プログラムについて、どうあるべきか。
- ・機関評価に具体的に踏み込んだ内容

質問7 会場、実施時期、実施時間等について、ご意見・ご要望等がありましたら、具体的にお書きください。

- ・場所は霞が関が良い。
- ・開催回数を増やしてほしい。
- ・年度末以外の時期がいい。
- ・地方開催していただきたい。
- ・周知期間を1ヶ月以上確保してほしい。
- ・スクリーンが小さく役割を果たしていない。
- ・会場、実施時期、時間とも適切であった。

質問8 その他、研究開発評価シンポジウム全般に関するご意見・ご要望等がありましたら、具体的にお書きください

- ・ CCS (CO2分離、地中貯蔵) 技術について、各方面で取組がなされているが、評価が不十分であるため対象にしてほしい。
- ・ 各発表者の話や関心にバラツキがあったと思う、パネル・ディスカッションで理解ができた。
- ・ 今後も各所の成功事例など伺えるとありがたい。
- ・ プレゼン後にQ&Aの時間があると良かった。
- ・ 法人評価、認証評価のセクターの人も含めた議論の場があっても面白いと思う。
- ・ 資料が紙なのはエコではない。
- ・ 機関の中では客観的な視点が得られにくいため、本日のシンポジウムのような情報共有の機会を設けていただけると大変ありがたい。

質問9 研究開発評価活動全般に関して、ご意見・ご要望がありましたら、具体的にお書きください。

- ・ 評価委員の選定基準、判断の明示。
- ・ 法人間の統一的な評価基準を設けることの可否について意見交換。
- ・ 研究開発評価の浸透度はまだ低いので、より広報が深まると良い。
- ・ 評価疲れの回避について、推進していただきたい。
- ・ 文部科学省の評価指針は、必要箇所がわかりにくい。
- ・ 人文・社会系について、どう対応されているかに興味がある。